

大坂寺内町の日々

——『天文日記』から——

はじめに

- 一、本願寺証如の元日の行事
 - 二、大坂寺内町
 - 三、寺内町の住民
 - 四、寺内町特権と町の諸役
 - 五、紛争の処理と秩序の維持
 - 六、水の都——舟と船
 - 七、日々の断章——年中行事・風呂・旅宿など——
- おわりに

論文要旨

本稿は本願寺第十代の法主証如が天文五年（一五三六）から同二三年（一五五四）の十九年間にわたって記した『天文日記』（また『証如上人日記』『石山本願寺日記』とも言う）を素材に、同じ時期の寺内町大坂の日々の様子を考察したものである。その一々は本文に明らかにした如くである。それは、単にその日々の生活実態を説明したと言うに止まらない幾つかの点を持っていると考える。

一つは、藤木久志氏が明らかにした『戦国の作法』を都市・寺内町大坂で

も見出しえたことである。即ちこの時期の社会の成り立ち・規範を考える上での新しい素材を提供したことである。二つ目は、本稿が明らかにした大坂の様子は、昨今盛んになりつつある戦国時代から織豊政権期の都市の在り方を考察するうえで多くの参考になる事例を検出したことである。三つ目は、寺内町を従来の様に薔薇色の自由都市と考えるのではなく、その実態を見つめ、広く戦国時代の社会の中で考察する必要があると指摘したことである。ともあれ、従来必ずしも明らかではなかった、戦国時代の都市の様子を一部とはいえ鮮明にし得たと考えている。

水 藤 真